資料1

市民参加の裾野拡大の 進捗状況について

令和6年1月29日

1 これまでの経過

<令和3年度>

市民参加の裾野拡大の取組として、高校生を対象とした授業の連携について検討

<令和4、5年度>

科目による連携方法を検討

①科目「公共」との連携

授業テーマを京都市が提示し、テーマの所管課が授業に出講する。

「市政参加」の推進に重点を置いており、R5年度の西京高等学校とのトライアルを実施。R6年度以降に全市立高校への拡大を目指していく。

- ⇒パッケージ型
- ②「総合的な探究の時間」との連携

生徒自身がグループごとにテーマを決め、その内容に応じて、京都市が連携可能な部署や団体(お宝バンク提案団体)、企業等につないでいく。「まちづくり活動」の推進に重点を置いており、R5年度は京都奏和高等学校と連携した。

⇒オーダーメイド型

2 令和5年度の取組

①科目「公共」との連携

【連携校】

京都市立西京高等学校(2クラス76名)

【取組の概要】

- ・対象…2年生で必修科目「公共」を選択したクラスのうち、2組・7組で実施
- 8/27 市産業観光局観光MICE推進室から冊子「みんなでつくる京都観光」を題材として、観光の現状やエリア別の観光課題について説明。

【スケジュール】

- 9~10月 6回の授業で各チームに分かれて検討
- 10/27 検討結果の発表をポスターセッション形式で実施 終了後、アンケートを実施(詳細後述)
- 12/18 西京高校及び教育委員会と取組の振り返りを実施



【アンケート結果(抜粋)】

- 1 自分自身の身近なまちの課題に関心を持つようになりましたかそう思う22名(29%)まあそう思う45名(60%)どちらともいえない6名(8%)あまりそう思わない1名(1%)そう思わない1名(1%)
- <u>2</u> 行政が行っている様々な施策に関心を持つようになりましたか そう思う10名(13%) まあそう思う48名(64%) どちらともいえない10名(13%) あまりそう思わない4名(5%) そう思わない3名(4%)
- 3 行政が行っている様々な施策に意見を言ったり、参加してみたいと思いますか そう思う6名(8%)まあそう思う14名(19%)どちらともいえない40名(53%) あまりそう思わない12名(16%)そう思わない3名(4%)
- 4 設問3で「そう思う」「まあそう思う」を選んだ方は具体的に。
 - ・公共交通機関の料金が高いことについて・ふるさと納税の返礼品拡充
 - ・市の取組を市民にもっと伝える方策 ・高さ制限や民博など自分の地域に関するもの
 - ・財政、教育・あらゆる世代の住民が参加できる機会が少ないため増やしてほしい等
- <u>5</u> 地域のまちづくり活動(行政が行っているもの以外 例:地域の清掃活動、お祭りの運営など)に参加してみたいと思いますか

そう思う6名(8%) まあそう思う17名(23%) どちらともいえない40名(53%) あまりそう思わない9名(12%) そう思わない3名(4%)

- <u>6 設問5で「そう思う」「まあそう思う」を選んだ方は具体的に。</u>
 - ・地域猫への対応、ごみ分別、ラジオ体操・・有償であれば大学生になれば参加したい
 - ・伏見稲荷大社の祭、祇園祭のボランティア・誰でも特に用がなくても寄れる場づくり等

②「総合的な探究の時間」との連携 【連携校】

京都市立京都奏和高等学校(4クラス54名)

※京都奏和高校においては「総合的な探求の時間」をビジテックとして実施している。

【取組の概要】

「まちの誰かを笑顔にするプロジェクト」として、生徒自身が、子ども・大人・高齢者や観光客など様々な人が抱える課題や困りごとについて、それらを乗り越え笑顔にするための企画を考えるもの。趣旨に賛同した京都信用金庫及び龍谷大学の協力も得て実施。

市民協働推進担当としては、身近な人が

抱える課題を考えることを通じて社会課題に関心を持ってもらうことを狙いとして連携実施。具体的な役割としては、当該課題に関連する本市部局の紹介をはじめ、様々なコーディネートを行った。



【スケジュール】

令和5年2月~4月 生徒各自が進めたいアクションのイメージを描くためのワーク等を複数回実施(篠原副座長が参画)

7月~ アクションのブラッシュアップ

各チームのテーマに合わせて協力者を紹介(本市及び京都

信用金庫)

実施日	場所	活動内容		連携機関
9月1日(金) 14:30~16:30	京都信用金庫 「QUESTION」	施設見学及びワー クショップ	QUESTIONの見学及びグローカル人材開発セン ターを交えたワークショップ	京都市 京都信用金庫 グローカル人材開発センター
9月5日(火)	京都奏和高	龍谷大学生イン ターンミーティン グ	プロジェクトに関わる学生へのオリエンテー ション等	_
9月5日(火)		ゼミ活動	月例会 (進捗共有・成果発表調整)	京都市 - 京都信用金庫 龍谷大学
10月3日 (火)				
11月21日 (火)				
12月14日(木)				
12月21日(木)	京都信用金庫 「QUESTION」	成果発表会	企画の最終発表会	



オープニングセレモニー

市長とプロジェクトに ついて意見交換





7階ポスターセッション

各チームのプレゼン



ポスターセッションにて

参加者を呼び込む役割





1階カフェでは大人を 癒す試み

高齢者を疑似体 験している がい方を教え で大を授 で大を授



3 学校・教育委員会の反応

<西京高校>

- ・生徒にとって、現場を知る大人から直接話を聴き、自分たちの案に意見をもらう経験は非常に刺激的で、大きな学びにつながった。社会を構成する一員として社会参画していく意欲を高める点でも有意義であったと感じている
- ・市職員をはじめとした大人に授業で話してもらいたいという教員のニーズはあり、教員によっては直接市の所管課とやり取りをして実現しているが、そうでない教員にとっても活用できるような仕組みがあるとありがたい

<京都奏和高校>

- ・本校ならではの進め方で、授業協力者にもその点を十分理解してもらい、生徒が自分たち の思いを形にすることができた
- ・行政関係機関やまちづくり活動団体へのつなぎ、成果発表交流会の会場確保などは、学校 単独の動きでは難しかったり、スムーズにいかなかったりすることもあるが、授業協力者そ れぞれの強みを発揮してもらい実現することができた

【今後の方針】

<パッケージ型>

- ・生徒へのアンケート結果及び学校の声から、市民参加の裾野拡大に寄与するものと考えられるため、令和6年度以降も継続して実施する
- ・令和6年度は、全市立高校9校のうち概ね半分程度の学校での実施を目指していく
- ・実施校の増加を見据え、簡素化を図っていく(京都市政出前トークの活用など)

想定スケジュール

4月~…市立高校への説明

9月頃まで…実施校の決定

9月以降…実施校との事前打ち合わせ

秋以降 …連携授業の実施

<学校からの聴き取りを踏まえた留意事項>

- ・実施時期としては、1~3月が望ましい。4月から「倫理」「政治」等の各単元を経て最後に課題学習 というのが自然な流れであることや、スケジュール調整をしやすいため
- ・(多様な意見を知ることを目的として)校外に出て一般市民を対象とした聴き取り調査まで授業に含めることは安全管理上困難。「家族や身近な人に話を聴く」までが現実的
- ・全体のスケジュール感からすると、最大3コマの授業時間を用いるのが現実的。1コマのみを出前授業のような形で実施し、あとは学校でやるという方法も考えられる

<オーダーメイド型>

- ・基本的には学校側からの依頼に応じて展開することとする
- ・令和6年度は、引き続き京都奏和高校と連携していく